

第一番 誕生寺の御詠歌 (霊場調)

(法然上人ふたはたの御詠歌)

普通の速さで唱える

♩ = 53 ぐらい

松 濤 基 作曲

mf ○ × ○ × ○ × ○ × ○ × ○ × ○ × ○ × ○

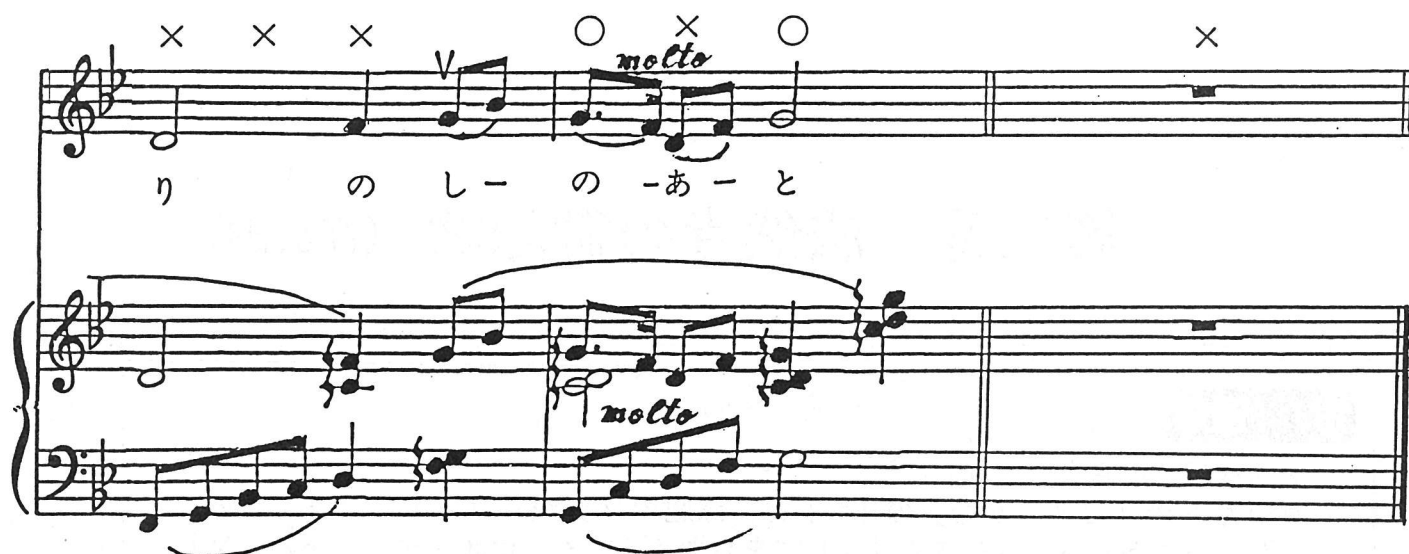
[斉唱] ふ た は た の - あ ま - く だ - り ま す む く - の き -

mf

○ × × ○ ○ × ○ × ○ × □ *rit.*

は よ よ に く - ち せ - ぬ の -

f *rit.*



第一番 美作の国 誕生寺

ふたはたの あまくだり 椋の木は 世世に朽ちせぬ 法の師のあと
(法力坊蓮生作)

誕生寺は、長承2年(1133)4月7日に、法然上人がお生まれになった屋敷の跡であります。このお歌は、阪東武者熊谷直実が法然上人のお弟子となり、法力坊蓮生と号し、法然上人御自作の御像を背負って、御両親のお墓に代参された時のお歌であります。法然上人の御両親が岩間の観音に願を掛け、お母様は剃刀を飲む夢を見て、懐妊遊ばされました。上人がお生まれになった時、庭の椋の木に白い幡が二流れ飛んで来て輝いたという奇瑞を教えられていた蓮生坊が、その椋の木を仰ぎ見た時の感激を詠まれました。

大意 お師匠様がお生まれになった時、白い幡が二流れ飛んできて掛かり、美しく輝いていたという椋の木。お師匠様は罪深い私でもお念仏により阿弥陀さまのお浄土へ救いとられてゆくとお教えて下さいました。お念仏の教えは、今までも、今も、そしていついつまでも決して朽ちることがありません。この椋の木は、天も喜ばれたお師匠様のお誕生の御跡であるなあ。南無阿弥陀仏。

ポイント注意

- 1小節め「ふたはたの」の「の」はタイ。
アクセントに注意。続いての「あまくだり」の「あ」は強声部ですから、弱くならないように。
- 最後は「捨てリン」(三拍目)
「しのあと」の「と」は感謝の心持ちで、ゆっくりそしてしっかり声を保って、捨てリンとなります。「リン」の音の止まるまで動かない。